

つぎのくにのリン

奄美市立屋仁小学校 一年 朝岡 ほのか

「まてまて。わたしのペットになりなさい。」

リンはもりでみつけたくろうさぎをおいかけまわして、すのなかにとびこみました。すると、ひゅうん、ゴロゴロゴロ。とつぜん、ふかいあなにおちてしまいました。

「いたたた。ああ、びっくりした。」

リンは、おしりをおさえながら、かおをあげました。てんじょうはそれのようにたかく、おひさまいろにひかっています。まわりには、つちでできたいえがあちこちたつて、くろうさぎがいたりきたりしています。すると、いっぴきのくろうさぎが、

「ようこそ。ここは、うさぎのくにだよ。ぼくのなまえはクロ。よろしくね。」

とはなしかけてきました。リンは、「しゃべるくろうさぎだ。よし、わたしのペットにしてあげるわ。こっちにきなさい。」と、クロのちいさいみみをひっぱりました。クロは、ここにこわらったまま、

「まあまあ。きょうは、つぎのくにのおまつりだよ。あんないするからおいでよ。」

といいました。リンは、おまつりがだいすきです。クロといっしょに、いくことにしました。

「さあさあ、あなほりたいかいだよ。」

リンとクロは、あなほりたいかいにでました。リンはいっしょうけんめいほりましたが、くろうさぎにはかないません。

「おなががすいただけで、まったくつまらないわ。ねえ、なにかたべものはないの。」

リンは、きげんがわるそうです。クロは、

「もちろんあるよ。こっちだよ。」

といって、でみせにあんないしました。

まず、くろいたこやきをたべました。

「みためはわるいけれど、おいしいじゃない。」

リンは、パクパクと百こもたべました。すると、うでからくろいけがはえてきました。けれども、リンはきづきません。

つぎに、くろいわたあめをたべました。

「まあ、くろざとうのあじね。おいしいわ。」

リンは、ベロベロとぜんぶなめました。すると、つめがふとく、するどくのびてきました。それでも、リンはきづきません。

そして、くろいかきごおりをたべました。

「こんどは、くろみつのあじね。いいにおい。」

リンは、がりがりとおりをかじりました。すると、みみがちいさくなくなってきました。まだまだ、リンはきづきません。

「おなかいっぱいだわ。もう、まんぞくピキー。」

リンは、じぶんのこえがかわつていることにきづきました。あわててじぶんのからだをみると、うではくろいけだらけ、みみはちいさく、つめはするどくどがつています。

「わたし、くろうさぎになっているピキー。」

リンは、がたがた、ぶるぶるふるえました。

「そろそろ、からだがかわつてきたね。そんなにくろうさぎがすきなら、もつとたべて、ぼくらのなかまになりなよ、リン。」

クロがめをあかくひからせて、くろいやきそばをもつてきました。

「もとにもどしなさいピキ。ピキピキー。」

リンのあたまから、だんだんにんげんのことばがきえていきます。くろうさぎになりたくない。どうにかしてにげなきゃ。リンは、おちてきたあなにむかつて、おもいきりはしりだしました。

ドドドドド。うしろをみると、あかいめのくろうさぎが、なんびゃっぴきもつなみのようにおいかけきます。十メートル、五メートルとさがちぢまって、

いまにもおいつかれそうです。クロのするどいつめが、リンにささろうとしたそのとき、リンはおちてきたあなにとびこみました。ひゅうん。リンはあなにすいこまれて、きをうしなしました。

きがつくと、リンは、もといたもりにたおれていました。おきあがってからだをみると、つめもうでのけも、もどおりになっていました。ほっとしたリンは、「つかまるまえに、かえれてよかった。くろうさぎをつかまるのは、もうやめたわ。つぎは、きのぼりとかげをつかまえよう。」

というと、もりのおくにはいつていきました。

じぶんのみみが、くろくてちいさいみみになっていることにきがついたのは、いえにかえってからのことでした。

